

活動名 野生への挑戦 子どもキャンプ	団体名	まちづくりジュニアスタッフ"ACT"(アクト)
	地域	広島県大竹市
	代表者	代表 寺岡 公章
	支援金額	40万円
活動概要		
<p>小学生4年生～6年生を対象として、今年は25名の参加者を迎えて3泊4日の生活重視型キャンプ活動を実施しました。整備された野営場を利用するのではなく、雑草が茂り落ち葉の積もった野原の草刈りや掃除をして、川の水を引いた流し台を設置した場所に小学生がテントを設営し、毎食自炊する班生活を営みます。また、各班には中学生が支援スタッフとしてつき、共に生活を送ります。</p> <p>◆実施時期 2011年8月4日～7日(3泊4日) 小瀬川ダム 市井原キャンプ場</p> <p>◆参加人数 参加者 25名 中高生 20名 市民会議推進員 80名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 125名</p>		



支援金により購入したテント



山間を流れる川で水遊び



盛り上がったキャンプファイヤー



大竹に帰った時の笑顔！

◆実施に伴う効果

私たちは、参加者に行事の全てをお膳立てせずに、参加者が「自分たちで考えて、自分達で行動し、自分たちで責任をとる」意識を持てるように努めています。そうすることで、ひと夏の楽しいだけの体験で終わる行事ではなく、自分たちも社会の一員であるという意識を学んでもらえる機会になる事を望んでいます。

将来、彼ら彼女らが自ら地域に出向いて社会参加できる大人になり、更に次代の青少年の育成につながるような循環を築きたいと願っています。

平成23年度秋頃から、教育委員会のジュニアリーダー育成事業へスタッフとして正式に参加させていただき、前述の理念を認めていただけるようになりました。

◆苦勞した点

定員が100名であったところ、実際の参加者は25名に止まりました。原因は地域のスポーツ団体の大会であったり、他団体にレジャー重視型の行事が重複していたなどの反省につながりました。近隣他団体との連携を深め、事前の情報交換をもっと密にしていく必要がありました。

◆今後の課題・発展の方向性

参加人数は、行事の成功失敗を図る指標として無視できません。しかし、参加者に迎合しすぎると、本来の事業の目的から離れてしまい本末転倒です。開催団体内で議論を深め、実施の意義を構成員全員で共有していく必要があります。

また、それを対外的にもアピールしていく事で、参加者や保護者に当行事の本質を知ってもらう取り組みが大切になってくると考えます。

◆活動を終えての感想・意見等

お陰さまで無事に行事を終える事ができました。今年の参加者の保護者にも、20年前、30年前に当行事に参加したという保護者の方がいらっしゃいました。これだけ長く続けてこられたのも、マツダ財団様をはじめとする、周囲の深いご理解に恵まれてきたからであると、あらためて感じています。

これからも大竹の子ども達にとって大切な学びの場であり続ける事ができるよう、スタッフ一同研鑽を積んでいきます。

本当にありがとうございました。